PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 28 回）

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2025 年 4 月 29 日（火・祝）13:00-14:30
会場：オンライン（Zoom）
参加者：7 名（ディベータ 5 名、ジャッジ 1 名、オーディエンス 1 名）

ディベートの様子

今月のキーノートスピーカは、広島大学大学院人間社会科学研究科特定教授の澤井努氏でした。キーノートスピーカの紹介後はディベートの実践です。今月の論題は、**“Reproduction using gene-editing technology (genetically manipulating a fertilized egg to have children) should be prohibited by law. 遺伝子編集技術を用いた生殖（受精卵に遺伝子操作を加え、子どもを持つこと）は法律で禁止すべきである)”**でした。

キーノートスピーカの紹介

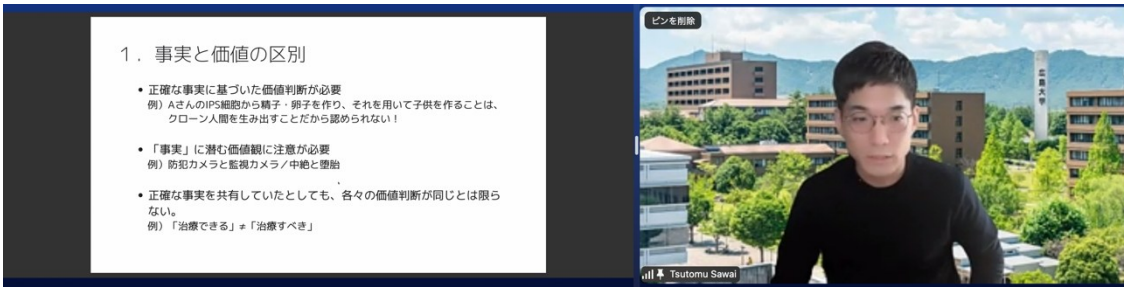
ディベートでは、技術の進展による恩恵を重視すべきか、それによって生じる倫理的・社会的影響を懸念すべきかという争点を中心に議論が交わされました。肯定側は、障害や病気を持つ子どもが生まれにくくなることで当事者の生きづらさが増し、また生命の多様性に対する人権侵害が起こり得る点を問題視しました。一方、否定側は、この技術が病気を克服する手段として発展する可能性や、家族がより健康な子どもを持てることで幸福が増すと主張し、実用化による社会的メリットを訴えました。議論の中では POI を通じた質疑応答もあり、倫理面・現実面の双方から活発な意見交換がなされました。

ディベートの様子

ディベート後の握手

ジャッジによるフィードバックの後、今回の論題について澤井努氏よりご解説をいただきました。「ゲノム編集による生殖」に関する科学的背景および倫理的課題について、生命倫理学の観点からの解説がありました。特に、研究と医療（治療とエンハンスメント）の観点から、それぞれの文脈におけるゲノム編集技術の可能性と問題点について詳しく論じられました。

質疑応答では、倫理の枠組みにおける世俗倫理と宗教倫理の違いや、日本における生命倫理の議論と法制度の現状、さらには海外の規制の比較などが取り上げられ、具体的な事例を交えたご回答をいただきました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

・非常に興味のある内容でした。「倫理的に正しい」あるいは「倫理的に正しくない」のなぜ？がレクチャーで説明されており、非常に勉強になりました。
・自分が知らない分野で新鮮で勉強になりました。恥ずかしながら責任ある「トランスレーション・パスウエイ」という言葉を初めて聞きました。
・倫理学のお話を伺う機会は、ふだんありませんので、とても興味深かったです。科学技術の発達と共に考え続けなければならない、重要な分野だと再認識しました。有り難うございました。
・澤井先生のお話のおかげで、今回の論題についてのより包括的な理解ができただけでなく、今後のディベートにも活かせる技術を知ることができた。